
からくりロマン

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

からくりロマン

【コード】

N9351P

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

少年と機械人形のふれあいと別れ

少年は廃遊園地に忍び込んで冒険するのが好きだった。

ある日見世物小屋で、壊れた機械人形を見つけた。

少年は機械いじりが得意だったので、忍び込む度に機械人形を修理した。

無くなってしまっていた左の眼玉には、宝物の透明なビー玉を入れた。

さびていた所は、ピカピカになるまで磨いた。

修理が完了する前に、少年は引越することになってしまった。

少年はいつしか青年になり、人形のことなどすっかり忘れてしまった。

ある夜、青年が街をぶらついていると、どこかで見たような姿があった。

あの時の機械人形かもしれない。

そうだ左目を見れば分かる。

しかし左目は閉じていた。

青年は話しかける。

「左目を開けてくださいますか」

眼を開くと、確かにあのビー玉があった。

しかし白くくすんでいた。

青年はポケットからハンカチを取り出して、ビー玉を拭いた。

すると昔のように透明になり、外套の光でキラキラ輝いた。

その眼には青年が映っていた。

「僕のこと覚えてる？」

青年は少年の時のような口調で語りかけた。

機械人形は会話機能がなかったの、ただ青年をじっと見ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9351p/>

からくりロマン

2011年1月9日02時13分発行